

令和3年度 第2回 学校運営協議会議事録

校名	府立むらの高等支援学校
校長名	森本 裕

開催日時	令和3年10月11日（月）15:00～17:00
開催場所	府立むらの高等支援学校 共用棟2階 会議室
出席者（委員）	（会長）荒木 寛巳 （副会長）大森 千枝 （委員）石神 彰人 上国料 洋子 三瀬 吉彦 吉坂 久美子 ※順不同、敬称略
出席者（学校）	（校長）森本 裕 【事務局】（教頭）向山 和子 （事務長）清水 幸雄 吉田 聖名子 速水 彬裕 重松 亮 山口朋之 石森 由紀子 岩里 哲朗 藤川 泰生
傍聴者	希望者1名（当日欠席）
協議資料	②授業参観アンケート集計結果、③学校教育自己診断について（報告）
備考	後日、議事録を学校ホームページで公開

議題等（次第順）
<p>1) 校長挨拶</p> <p>2) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観アンケート集計結果紹介（資料②） ・令和3年度学校経営計画の進捗状況について ・令和3年度学校教育自己診断の概要と診断票について（資料③） <p>5) 協議</p> <p>6) 校長挨拶</p> <p>7) 諸連絡（事務局より）</p>
協議内容（質問・意見の概要）
<p>【委員による意見交換及び協議】</p> <p><授業参観アンケート集計結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観アンケート結果を見ても、子ども達や保護者が安心している様子が読み取れる。開校以来、準備し、積み上げてきたことが実を結び安定期に入ったのではないかと思います。 <p><グーグル・フォームの活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の意見集約にグーグル・フォームを用いることは回答側も答えやすくなり、集中もしやすくなるので良い。 ・アンケート集約でのグーグル・フォームの活用は保護者としては自宅でもできるもので有難い。 <p><地域と連携した学習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議で三瀬委員より提案いただいた地域と連携した学習に、すでに取り組んでいる。この会議からの発信、意見が学校の前進に繋がっている。 ・先日の稲刈り学習に来てもらった際には、コンバインにも乗ってもらった。普段食べているお米が実際にどのように育てられているのかを知ってもらって貴重な経験になったのではないかと思います。就職に向けて、どのような会社に行っても苦労があることを感じてもらえればと思います。 <p><定着支援について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定着率90%を目ざすためにはアフターフォローが大切になるが、教員の時間外勤務軽減とは相反する側面もあり、どのように考えていくのか？本人が本当に困った時に相談をかけるのは時間外なのでは？相談しにくくならないか？アフターに当たる学校と企業側が日々の生活の中で連携できていることが大切ではないかと思う。 ・今春の卒業生の定着率が約半年で96%であるのは、「この半年に何かあったのかな？」とは気になる

が、コロナ禍での、この数字は高いと思う。雇用率について達成したいと考える企業は増えており、本人達は就職したいと考えている。ただし、率ではなく、本人達にとって働きがいとなる達成感、幸福感を見守っていける支援の連携が大切。

- ・本日もアフター対応のため職場訪問してきた。本人の「働くことへの捉え」を雇用側としてどう受け止めていくべきか困惑している様子がうかがえた。就ぼつセンターの仕事は定着支援とリスタート支援だが、在学中に「なぜ働くのか」をもっと深めていく学習に取り組んでもらえたら有難い。

就ぼつセンター登録時に基礎情報は届いても「本人が、なぜ働きたいのか」という「働く目的」の情報は現状では届いていない。寄り添って相談に乗り、定着支援に取り組むためには移行の手だて（支援の引継ぎ）が必ず必要になるので、今後に期待したい。

- ・「働きたい」「どういう形で働きたい」という子ども達や保護者の声をどのように拾っていかうと考えていますか？
- ・企業側の立場としては、基本は本人が将来的にどのようなになりたいのかを考えていることが大切。具体的なものでよい。
- ・実際の現場での対応例として、一旦休職を経験させて働くことを実感させたこともあります。続けさせることだけが正解ではない。適していなければ転職もあります。
- ・卒業生の体験談などは成功例を取り上げることが多い。本来は、失敗して、その後、どのように取り組んだのかを知っていくことの方が必要。そのためには卒業生が集まる場に在校生も一緒に交わればよい。

<授業を見学して>

- ・会議前の授業参観は興味深かった。視覚支援もすごくできていると感じた。「福祉」の授業では、どのような学習に取り組んでいるのか？
- ・「カフェ」で販売していた飾り棚が先日購入した店舗では980円だったが200円で販売されていた。金具を付属するなど使用者のことを考えて工夫することでより良い物になっていくのではないか。
- ・「家庭科」のティッシュカバー制作ではホワイトボードを活用し、作業の進捗状況を報告しながら進めていく方法が取られていた。ティッシュカバー制作に取り組みやすくするための提示に留まらず、就労に向けて「何のために取り組んでいるのか」や、「何を学んでいるのか」を生徒たちに教えていくことが大切なのだと思う。ティッシュカバーはあくまでも学ぶための材料であるはず。

<保護者の立場から>

- ・他校PTAとの意見交換では、「タブレットをあまり使っていない」と聞かすが、むらのは「授業ノートとして使っている」と子どもが当然のように話している。先進的でよい。
- ・先日の2年進路保護者説明会では、2年生後期以降の大切さ、進路決定に向けた厳しい現実を知った。親も頑張らねばと思った。保護者としては卒業生の保護者の生の話を聞きたい。また子ども達には卒業生の実際の話を知りたいが、そのような機会はありますか？

【本校よりの回答】

- ・「福祉」では主に介護、保育の学習に取り組んでいる。資格取得ではなく、目の前に困っている人がいたときに何か一つできることと、コミュニケーション力を学んでいる。
- ・新商品の開発は生徒の学習モチベーションとしても大切。あくまでも商品であり、お客様に共感することに重きを置いている。また、なぜ売れ残ったのかを考えることも大切であり、お客様の言葉を自分たちの反省材料としている。
- ・卒業生を招いての進路学習はすでに1年次に取り組んでいる。また、今年度は3年次にも企画を検討中である。
- ・卒業生からの相談は、現状では本人にとって就ぼつセンターと学校のどちらか相談しやすい方に入っている。ケースによっては離職後の相談もあり、難しい課題である。就ぼつセンターと本校の更なる連携構築が大切である。
- ・「働く目的」の教え方としては職場実習等での課題を振り返り学習で伝え、「就労に向けた意識」は学校全体で取り組んでいる。
- ・子ども達が誰に心を開いているのかを把握していくことが大切である。もちろん就職率のみにこだわっているわけではなく、場合によっては卒業後、ワンクッション挟んだ方がよいケースもある。就労実現が大前提の学校ではあるが、無理な就職をしての失敗体験は避けたい。